

No14

【4】🔍 全体のテーマ

この英文では、「人間社会における対立(conflict)」が避けられないものであると同時に、価値あるものであるという逆説的な視点が提示されている。争いのない社会は理想的に見えるが、それは非人間的であり、人間としての重要な価値を犠牲にする可能性がある。価値観の衝突(clash of values)が、むしろ自由で開かれた社会(open society)には必要不可欠であるという哲学的主張がなされている。

🔍 全訳

対立のない人間社会などありえない。そんな社会は、友人たちの社会ではなく、蟻の社会になってしまうだろう。たとえそのような社会が実現可能であっても、私たちにとって最も重要な人間的価値のいくつかは、その実現によって破壊されてしまうだろう。そして、だからこそ、そのような社会を実現しようとする試みは、私たちによって慎まれるべきなのである。一方で、私たちは確かに、対立の削減を目指すべきである。ここですでに、価値や原則の衝突の一例がある。この例はまた、価値や原則の衝突が、価値あるものであり、むしろ開かれた社会にとって本質的なものであることを示している。

🔍 第1文

There can be no human society without conflict: such a society would be a society not of friends but of ants.

🔍 和訳

対立のない人間社会などありえない。そんな社会は、友人たちの社会ではなく、蟻の社会になってしまうだろう。

■ 解説ポイント: There can be no ~: 仮定的・強調的な構文。助動詞 can の否定形によって「~はありえない」と断定的に述べる。 no human society without conflict: 二重否定的な表現(no ~ without ~)で、「対立がなければ人間社会は成り立たない」ことを強調。 conflict: 語源はラテン語の「con(共に)+ fligere(打つ)」で、「衝突・争い」を意味する。war(戦争)よりも日常的・抽象的な争いに用いられ、個人や集団の間の意見・価値の対立を含意する。 not of friends but of ants: 対比表現(not A but B)。AではなくBという強い対照を示す。ここでは「友人ではなく蟻」とすることで、社会の非人間性・機械性を暗示。

🔍 第2文

Even if it were attainable, there are human values of the greatest importance which would be destroyed by its attainment, and which therefore should prevent us from attempting to bring it about.

🔍 和訳

たとえそのような社会が実現可能であっても、私たちにとって最も重要な人間的価値のいくつか、その実現によって破壊されてしまうだろう。そして、だからこそ、そのような社会を実現しようとする試みは、私たちによって慎まれるべきなのである。

■ 解説ポイント:

- ✔ Even if it were ~: 仮定法過去。「たとえ~であったとしても」。非現実的な仮定を導く。
- ✔ attainable: 形容詞「達成可能な」。語源はラテン語「ad(~に) + tangere(触れる)」→「到達できる」
- ✔ of the greatest importance: of + 抽象名詞の構文。「非常に重要な」= 形容詞 important の最上級表現に相当。
- ✔ would be destroyed: 仮定法過去の受動態。
- ✔ by its attainment: 「それが達成されることによって」。名詞 attainment(達成)は、動詞 attain(達成する)の派生語。
- ✔ should prevent us from attempting ~: prevent A from Ving = 「A が V するのを妨げる」構文。
- ✔ 無生物主語構文: which(=価値)should prevent us...という構造で、抽象名詞が動作の主体になる。

🔍 第3文

On the other hand, we certainly ought to bring about a reduction of conflict.

🔍 和訳

一方で、私たちは確かに、対立の削減を目指すべきである。

■ 解説ポイント:

- ✔ On the other hand: 副詞句。「他方では」= 前文との対比を導く表現。
- ✔ certainly: 副詞。「確かに」「もちろん」= 主張を強調。
- ✔ ought to V: 助動詞。「~すべきである」= 道徳的・論理的義務を表す。
- ✔ bring about: 句動詞。「~をもたらす」
- ✔ a reduction of conflict: 名詞句。「対立の減少」

🔍 第4文

So already we have here an example of a clash of values or principles.

和訳

ここですでに、価値や原則の衝突の一例がある。

■ 解説ポイント:

- ✔ So: 接続副詞。「したがって」「このようにして」前文の結論や結果を導く。
 - ✔ already: 副詞。主語の前に置かれて「すでに」「すでに今この段階で」という強調。
 - ✔ we have here ~: 倒置に近い構文。here が文中にあることで位置情報を強調。
 - ✔ a clash of values or principles: clash は「衝突・対立」→ war や battle と異なり、暴力的というより価値観の対立に用いられる。
 - ✔ clash / crash / crush の違い: ・clash: 意見・価値観のぶつかり(象徴的・精神的) ・crash: 衝突事故、激しい物理的衝突 ・crush: 押しつぶすこと、粉碎
-

第 5 文

This example also shows that clashes of values and principles may be valuable, and indeed essential for an open society.

この例はまた、価値や原則の衝突が、価値あるものであり、むしろ開かれた社会にとって本質的なものであることを示している。

■ 解説ポイント:

- ✔ shows that S V: that 節を目的語にとる動詞構文。
- ✔ may be valuable: 助動詞 may による推量。
- ✔ indeed: 強調副詞。「実際に」「むしろ」= 直前の表現を補強・再確認。
- ✔ essential for ~: 「~にとって不可欠な」= 形容詞 essential の基本構文。
- ✔ an open society: 「開かれた社会」= 個々の意見や価値観が自由に表明できる社会を指す。